

広報委員会（第24期 第7回） 議 事 要 旨

1. 日 時 令和2年7月3日（金）15:00～17:00
2. 会 場 オンライン開催
3. 出席者 渡辺委員長、町村副委員長、大倉幹事、多久和幹事、荒川委員、伊藤委員、所委員、三成委員、渡辺（芳）委員、岩崎委員、上田委員、嶋田委員、辻委員、橋田委員、松宮委員、山川委員、原島委員
- 欠席者 池谷委員、隠岐委員、福永委員

4. 配布資料

- 資料1－1 「学術の動向」編集分科会報告
- 資料1－2 国際発信推進分科会報告
- 資料2 今期の課題
- 参考1 前回議事要旨
- 参考2 委員名簿

3. 議 事

(1) 各分科会の進捗報告

○「学術の動向」編集分科会

伊藤分科会委員長より以下のとおり報告があった。

- ・今年、1月28日、5月20日に分科会を開催した。
- ・今年度から、新企画として4人の執筆者（宮本憲一、長谷川真理子、尾関章、森まゆみの各氏）による「学術の風景」と、若手アカデミーの協力による「学術と社会の未来を考える」の連載を開始した。
- ・10月の改選を見越し、来年1月までの特集記事を確保している。

○ホームページ編集分科会

三成分科会委員長より以下のとおり報告があった。

- ・最近分科会を開催できていないが、今期中に開催したい。
- ・本年1月にホームページの改修を行った。ただし、予算の関係でトップページ周

辺のみの改修となっている。

- ・分科会による提案ではないが、学術会議の新型コロナウイルスの取組に係る特設ページを作成し、トップページにリンクを貼っている。
- ・一部のページについてはリンク漏れなどの不備も散見されるので、できれば今期中に対応したい。

○国際発信推進分科会

町村分科会委員より以下のとおり報告があった。

- ・昨年10月16日に分科会を開催した。
- ・英文のパンフレットの作成を行ったので、次はホームページの改修について検討している。
- ・英語ページについては、日本語のページをそのまま英語化するのではなく、海外向けの情報を取捨選択する必要があると考えている。

(2) 今期の課題について

渡辺委員長より、資料2に基づき以下の通り説明を行った。

- ・学術会議ホームページの閲覧数、閲覧者数について
- ・最近更新されていないが、「おもしろ情報館」の閲覧者数が多い。
- ・SDGsについては、関連する提言等が増え、閲覧数も徐々に増えている。できるだけSDGsの目標がばらけるように調整しているが、今期は貧困、水、海に関連するものが今のところない。

(3) 意見交換

○「学術の動向」について

- ・新しいコーナーも増え、内容が充実してきている。企画案の段階では、執筆者の思い入れが強く、必ずしもニュートラルではないものもあるが、編集委員会から指摘により、読者を意識した編集ができていると思う。
- ・表紙についても読者をひきつける工夫が必要。
- ・2020年5月号の自動運転の特集記事は、執筆者の半数以上が東京大学の関係者だった。多様性（性別、大学、地域）の確保が必要。
- ・記事にレジユメの様なものをつけられるとよい。
- ・特集記事は、過去のシンポジウムを題材としたものが多い。シンポジウムは企画の検討に半年から1年程度の準備期間が必要なこともあり、特集とする場合、

どうしてもタイムリーな話題となりづらい。

- ・今期の試みとして、編集委員会企画でシリーズ特集「原子力と社会」（5つの特集）を定期的に掲載した。
- ・学術会議の関係者だけでなく、読者層を広げる議論も行った。（大学入試の参考文献・高校の授業の題材、経団連情報への掲載等）
- ・複数のシンポジウムを一つにまとめられるとよい。（多様な視点の確保）

○ホームページについて

- ・学術会議ホームページは改修により情報が整理され、見やすくなった。他方、ツイッターのフォロワー数が伸び悩んでいる。
- ・地区会議活動の情報提供をさらに充実できたらよい。
- ・「おもしろ情報館」を閲覧した方の具体的な属性はわからないが、内容的に学校教育に利用されているのではないか。ただ、データが古いままで更新されていない。次期への引継ぎとしたい。
- ・「おもしろ情報館」のテーマとして、例えば生命科学分野では「脳科学」「ゲノム」「体の仕組み」「健康増進・長寿社会」などが一般の方の関心も高く、社会との接点のきっかけになると考えられる。

○シンポジウム等の動画の掲載について

- ・容量の問題もあるが、シンポジウムを録画した動画を分野ごとに整理してホームページに掲載できればよい。
- ・新型コロナウイルスの影響でオンラインのシンポジウム開催が増えた。オンライン開催の場合、会場に来られない方も参加しやすくなるので、今後シンポジウムを開催する際は、原則としてハイブリッド（実参加とオンライン）で行うとよい。
→（事務局）シンポジウム等のオンライン開催は事務局の負担が大きい。今後、その負担をどれだけ省力化できるかが課題。
- ・ホームページ上ではシンポジウムごとにページを作成している。動画についても当該ページに掲載すればよい。
- ・シンポジウムの動画を学術会議のホームページで掲載する場合、編集や容量の問題が出てくる。（zoomの動画の場合、1時間で700MB程度）
- ・外部のサーバーに動画を保存し、そのURLを学術会議HPに掲載する形であれば、比較的簡単に対応可能ではないか。
- ・公開シンポジウムは、基本的に事務局は関与せず主催委員会の責任において開催

している。動画の撮影、編集、外部サーバーでの公開は主催委員会が行い、事務局はその URL をホームページに掲載する。他方、学術フォーラムは学術会議の主催となるため、それらは事務局が対応という切り分けは必要。

○各部・各委員会のページについて

- ・資料の掲載依頼を行ったがいつまでもホームページに掲載されないこともあった。来期に各委員会等のページを刷新する際に、見直しを行う必要がある。
- ・各部・委員会のページは、期ごとにコンテンツを作成しているが、期を超えて充実させていくべきコンテンツもある。HP 編集分科会の次期への課題としてまとめようと考えている。

○英語ホームページについて

- ・英語ページのコンテンツのほとんどが国際委員会の担当する国際会議や国際団体についての情報であるが、十分更新されていない。可能な限り今期で対応したい。
- ・国際委員会の更新情報がきちんとホームページに反映されるよう、事務局で対応すべき。
- ・英語ページに掲載する情報については、日本語の情報を取捨選択する必要がある。また、各担当からの英語ページへの掲載希望についても同様に情報を取捨選択する必要があるが、その権限のある「編集長」の様な担当を決めることはいかがか。掲載する情報を 1 件ずつ議論するとなかなかコンテンツは増えないと思う。
- ・英語パンフレットは英語ページに掲載されているが階層が深い。トップページから見られるようにした方がよい。
- ・新型コロナの特設ページについて、海外向けの情報にも関わらず、一部の内容が日本語となっている。

(4) まとめ（次期への引継ぎ事項）

○「学術の動向」

- ・文字の密度が低すぎるので、コンパクトにすることが課題
- ・表紙を中心に見た目も課題
- ・著者の偏りが無いようにする（ジェンダー、大学、地域）
- ・レジュメが掲載できるとよい
- ・読者ターゲットへの働きかけ（経団連の件も引き継ぐ）
- ・特集記事をシンポジウムの報告とする場合、情報が古くなるという課題がある

- ・多様な視点を確保するため、例えば複数のシンポジウムを纏めた特集を企画する。
論文執筆に当たっては、シンポジウムでのフロアー発言への丁寧な対応など本誌理念「科学と社会」に相応しい対話を十分に入れる。

○ホームページ

- ・ツイッターの工夫（更新は速やかに実施されているがフォロワー数が伸びていない。）
- ・地域の情報の掲載
- ・「おもしろ情報館」ページの充実
- ・動画の掲載について 学術フォーラムや公開シンポジウムの録画掲載が有効
- ・ホームページの情報更新（画像を入れる）については、来期の初めにしっかり確認する

○英語ホームページ

- ・海外向けの情報を取捨選択して掲載する（編集長に相当する担当の必要性）
- ・国際委員会関係情報の反映（事務局：HP 担当と国際担当の連携）
- ・ホームページ上のパンフレットについて、見やすい位置への配置
- ・情報は英語で統一する（一部日本語の記載が入っている）

(4) その他連絡事項

渡辺委員長より、学術会議ホームページ（アジア学術会議）に不適切なリンクがあったが現在はリンクを削除している旨報告があった。